



福島隆史(ふくしま・たかし)

公認会計士。(株)サステナビリティ会計事務所
/サステイバー・コミュニケーションズ(株)代表
取締役としてコンサル/レポート制作/保証を
行う。著書「CSRエピソード」幻冬舎 2017年。

SDGsバッジを 見かけたら。

今回はSDGsの意味するところについて確認していきましょう。SDGsは、そこに含まれる17ゴールの定義を精緻に確認することにより、その前文に書かれた精神を理解することが大切なのであり、SDGs文書に付された副題がその精神をよく表していると思います。「Transforming Our

World:我々の世界を変革する」です。ではどのような方向への変革なのかといえば、誰一人取り残さないことを誓い、あらゆる形態の貧困を撲滅することを目指すのであって、そのために大胆な手段をとっていく、という、2030年に向けた人類共通の行動計画なのです。「Transforming」という英語が表現しているように、クルマがロボットに変身するような大いなる変革が求められていると共に、最も遅れているところに第一に手を伸ばすよう努力していく姿勢も併せて求められています。

そのようなSDGsの精神からすると、異常気象頻発が、世界の貧困に繋がりがかねない大きな課題であることを自覚せねばなりません。

ところで最近、私が日頃よく活動している首都圏では、スーツの襟元のところに17色の輪のバッジをつけたビジネスパーソンをよく見かけるようになりましたが、皆さまはい

かがでしょうか?東京2020オリンピックパラリンピックの開催まで1年を切ったことから、そういった関連バッジが何かと間違えて、あれ?オリンピックって5色の輪のはずなのに、新たに17色のバージョンが登場したのかな?と思われる方もいらっしゃるかもしれませんね。

17色の輪のバッジは、所属している会社として、もしくは個人として、SDGsの理念に賛同しているという意思表示の証です。既にSDGsへの貢献を果たしています!といった勲章的な意味合いではなく、私はSDGsへの貢献を意識しています、共にSDGsについて貢献していきませんか?といった、サインとしての意味合いが強いものです。ですから、SDGsバッジを付けている方には、「あなたはSDGsについて、2030年に向けてどのように貢献しようとしていくのですか?」などと切り出してみるのがナイスだと思えます。そのような会話がきっかけとなり、みんなで世界に大きな変革を起こすことができれば、それこそがSDGsの精神に合致した素晴らしい活動なのです。



SDGs Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

2015年国連が採択した持続可能な開発のための
2030年アジェンダ

